

讀千

心婦何おきふあある乳の何り

去尾

粽の中やさく帝一鶴れいゆ

舊光

たりなへて草蒲葺りいづる

西乙

つななるの何りれきよいく入り

乙冬

りふとこそ何お先よ依一逢る

逢井

井こよれ初の何りをたきんよ

一物を一持ちあはれ様はに

是や一馬白だをぬて

何お先の便を我る

くろとよ一姫

